

[KGU同窓会コミュニケーション誌] 京都学園大学同窓会

Cheer

チアー [cheer]

応援すること・結果すること・感動すること
元気がよいこと・気分がよいこと・楽しいこと

NO.15

Reportage of Graduates

それぞれの卒業後を追う1

「土井志ば漬本舗」経営

土井 健資

それぞれの卒業後を追う2

～地元で頑張っています～

「京都市北消防署」勤務

射場 俊行／西尾 禎則／東 尚志

Reportage of Club

1部リーグ昇格を目指す

男子ソフトボール部／洋弓部

Let's Reeducate!

誌上ゼミナール／堀田 稔

日本固有の児童文化、「紙芝居」が
教育界に新しい可能性を拓く!?

KGU Topics

学長就任のご挨拶／海原 徹

2003年度入試日程・科目

Memories of KGU

あの先生は、今／川畑 周作名誉教授

なつかしの下宿を訪ねて／南江 昌子さん

同窓会員の広場

ホームカミングデイ開催のお知らせ

京都学園創立80周年記念募金のお願い

平成13年度同窓会決算書

事務局だより

同窓会30周年記念式典開催のお知らせ

同窓生メッセージ

土井 健資

昭和61年経済学部経営学科卒業後、株式会社土井志ば漬本舗入社
平成3年取締役営業本部長、5年専務取締役、6年代表取締役専務、
11年代表取締役副社長を経て、13年代表取締役社長に就任
平成13年度京都青年会議所理事長
平成14年度日本青年会議所近畿地区京都ブロック協議会会長など、
団体役員としても活躍中



基本を守りつつ進化し続ける
「温故一新」が私のモットー。
伝統の製法と精神を受け継いだ
「志ば漬」を柱とする一方、
時代に即した商品を開発し、
常に新たな提案をしていきます

志ば漬の里



売を手がけたのが始まりだ
という。

それから100年、21世紀
の幕開けとともにその5代
目社長を継ぎ、ますます社

業を発展させているのが土井健資さん。
昭和61年にわが京都学園大学を卒業した
同窓生だ。

社員の暮らしを豊かにし 社員とともに成長を図る

白川通から国道367号線に入り、八瀬を
経てさらに高野川の溪流沿いに北上する
と、大原の玄関口ともいえる花尻橋にいた
る。この橋のたもとに「志ば漬の里」
と名づけられた、土井志ば漬本舗の本館
と工場がある。

土井さんはその一角にある居宅で生ま
れ育った。昨年4月、社長に就任した時
の年齢が37歳11カ月。数ある京都の老舗
の中でも、最も若い社長の誕生であった。

「スタートは東京勤務で、大学卒業と
同時に日本橋の三越に勤め、3年間にわ
たって修業を積みました。その後、さま
ざまな試練や体験を重ねてきましたが、
その一つひとつが今に生きています」

「最大の試練は、平成5年に父を亡くし
たことですね。父が遺した莫大な借金を
返済するため、銀行とシビアな折衝をす
るなどずいぶん苦労しましたが、それが
いい勉強になり、また完済したことで自
信にもつながったと思います」

「その一方、若いころから業界団体な
どに顔を出し、先輩方にもまれてきたの
はいい経験になりました。多くのことを
教えていただけたし、人脈も広がりました
からね」

「そうした経験を積むなかで、私は何
よりも人の和、人の大切さを学びました。
社員の成長がなければ会社の発展も望め
ません。そして、そのためにはすべての社
員の暮らしを豊かにする必要があります」

「父が亡くなってやがて10年。この間、
周りの人たちの幸せを考えられるよう
になった、これが私にとって一番の収穫だ
ったように思いますね」

老舗にふさわしい落ち着いた風情の「志ば漬の里」本館。
美しい緑と清流に恵まれた絶好のロケーションにある。



平安時代から受け継がれた 紫葉漬の老舗として1世紀

食生活はずいぶん多様化しているが、
日本人の食の基本は何といっても炊き立
ての白いごはんと漬物だ。なかでも、京
野菜を風味豊かに漬けた京漬物の人気は
高く、京みやげの定番となっている。

そんな京漬物を代表するもののひとつ
に紫葉(しば)漬がある。紫葉とは紫蘇
(しそ)の葉のこと。その独特の色合いや
香気、酸味を生かして京の夏野菜を漬け
上げた、京都ならではの名産品だ。

紫葉漬の歴史は古い。文治元年(1185)、
壇ノ浦の戦に敗れて大原の寂光院に閑居
した建礼門院を慰めようと、村人が土地
に伝わる野菜の塩漬を献上したところ、
「紫葉漬か」とおおせられ、たいそう
喜ばれたと『平家物語』に記されている。

昼夜の寒暖の差が大きい山あいの里・
大原は、良質の紫蘇を栽培するのに最適
の土地である。この紫蘇を夏の盛りに収
穫し、なす、きゅうり、みょうがなどの
夏野菜とともに漬けて乳酸発酵させた、
今では希少な漬物が紫葉漬である。

その伝統の製法を守り継ぎ、今に伝え
ているのが土井志ば漬本舗だ。代々この
地に住んできた土井清太郎氏が、明治34
年(1901)に現本社所在地である花尻の
土地を借り受けて店舗を建て、紫葉漬を
はじめ酒類、食料品、荒物雑貨などの販

大原の大地に住みついている乳酸菌が
発酵を促し、志ば漬のほどよい酸味と
鮮やかな紫色を色づける。1トンの野菜
を漬け込み、300キロの漬物が得られる。



毎年6月中旬～9月中旬が漬け込みの時
期。一つの樽に使う重石は50～55個で、
総重量は約1トン。樽全体に力がゆきわ
たるように積むのが熟練の技だ。



紫蘇の葉の収穫量に合わせてタイムリーに漬け込めるとともに、発酵中の志ば漬の熟成度を常にチェックするなど、現場との綿密なコミュニケーションも重要な仕事のひとつ。

ビジョンを明確に打ち出し、社員の幸せを実現する。これは経営のトップに立つ、リーダーの当然の務めです。



色・味・香り、三拍子そろった土井の志ば漬。京都・大原の観光みやげには欠かせない名産品として知られている。



社長室に掲げられている「十五の志」の額。この言葉の中に土井さんの志が込められている。

「志ば漬」の名称に託した大きな志を経営に生かす

今日、「しばづけ」と称する漬物は数多くあるが、「紫葉漬」でも「紫漬」でもない、「志ば漬」という名称を使っているのは、商標登録権を持つ土井志ば漬本舗のみである。その名称には、一樽一樽まごころをこめて漬け込んだ、おいしくて高品質な漬物の提供を通じて、日本の食文化に貢献しようという大きな志が込められている。

「昨年、創業100周年を迎えるにあたって、私は『十五の志』と題する社訓を創案しました。第1は、美味しさを究める、自然志向で健康にいい、由来を大切にするなど5項目からなる『ものづくり』。第2は、問い学び知恵を磨け、有言実行、情熱で響き合えなど5項目からなる『人づくり』。第3が、温故一新、お客様を第

一に、常に判断を求めるなど5項目からなる『組織づくり』です。さらに今年は『学びと挑戦』をスローガンに掲げ、一層の前進を目指しています」

「リーダーにビジョンがないと社員はついてこないし、企業そのものも形をなしません。同時に、会社が儲ければ社員も潤う、頑張った社員には正当に報いるといった、当たり前のことを実践することもリーダーの務めです。こうした方針を明確に打ち出し、実行することによって、社内の雰囲気もずいぶん明るく意欲的に変わってきましたね」

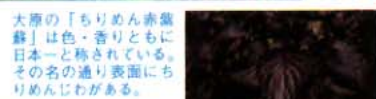
研究開発機能を充実させ紫蘇の可能性を追求

添加物を使わず、伝統の製法にこだわる土井志ば漬本舗にとって、紫蘇は経営の生命線だ。このため、他の野菜は近郊の農家と契約して栽培してもらっているが、紫蘇は基本的に90アールの自社農場で自社栽培している。3月に苗床をつくり、5月に苗を植え、7～8月に収穫して夏野菜とともに漬け込む。そうした一連の作業に、土井さん自らが先頭に立ち取り組んでいるのである。

「紫蘇は健康食品であると同時に、ハーブでもあるわけですね。そこで研究開発室を設け、いろんな可能性を追求して



「志ば漬の魂」の産地ともいえる紫蘇畑。本舗の専地で自社栽培しており、夏になると畑一面が上品な赤紫一色に染められる。



大原の「ちりめん紫蘇蘇」は色・香りとともに日本一と称されている。その名の通り葉面にちりめんじわがある。



出上がった製品を真空パックする「調味加工充填室」。伝統技術を受け継ぐ一方で、近代化にも取り組んでいる。

います。たとえば、漬物である志ば漬はほとんどともに食べるものですが、ハーブという観点に立てばパン食にも対応できるはずですよ」

「すでに新商品提案チームでは、本店オリジナルの紫蘇のゼリー、紫蘇のソフトクリームを開発し、商品化していますが、今後、研究施設および研究スタッフをさらに充実させて、将来の新商品のタネを次々と育てていきたいと考えています」

現在、土井志ば漬本舗の店舗は、京都市内の直売店5店舗のほか、関西・関東・九州各地の百貨店などに24店舗を出店している。これに加えて、物産展など年間40回にのぼる催しがある。そして青年会議所や京都府物産協会、京都市観光大使、おこしやす京都委員会など各種団体の役員を務め、いくつかのボランティア活動にも参加している土井さんは、まさに分刻みの忙しさが、巧みな時間配分でエネルギーにこなしている。

「老舗は、基本を変えることなく、たえず進化し続けることが大切。40歳になれば40代の、50歳になれば50代の目標を立て、常に挑戦していきたいですね」

学生時代も経済効率を考え効率よく3年で単位を取得

今でこそリッチな土井さんだが、小遣いを制限されていた学生時代は、少しでも節約するために知恵をしぼったという。

「大学へは毎日クルマで通ったのですが、1人で乗ったのではガソリン代がバカになりません。そこで同じ通学路にあたる友人と組んで、4人1グループで同乗して通ったものです。老の坂を越えるあたりでは、深い霧にずいぶん悩まされましたね」

「また、できるだけ登校日数を減らそうと、カリキュラムを工夫して効率的に単位を取るようになりました。おかげで、必要単位はほとんど3年間で取りましたよ」

「人並みにアルバイトもしましたが、7～8月は志ば漬の漬け込みに追われました。8石の大樽だと、約1トンの野菜を詰め込んだ上に、20キロの石を50個、つまり1トンの石をバランスよく積むという肉体労働、まさに今でいう3Kですね。しかし、このような昔ながらの製法を守っているからこそ、本当においしい志ば漬がつくれるわけです」

「クラブ活動は、高校からの続きでテニス部に入ったのですが、当時はレベルが低すぎましてね。結局すぐに退部して、京都市内のパブリックテニスクラブで練習を続け、大会にもここから参加しました。今はテニスのほか、卒業後に始めたゴルフを楽しんでいます」

「青年会議所の京都ブロック協議会の会議などに出席するため、京都学園大学の近くを通るので、年ごとに充実していく大学の状況はよく知っています。在学生の皆さんには、京都学園大学のステータスを上げるためにも、しっかり頑張ってもらいたいですね」

本館内に設けられた漬物産房「花じり」。土井志ば漬本舗ならではの漬物種が各種用意され、ゆったり気分が味わえる。



株式会社土井志ば漬本舗

〒601-1251
京都市左京区八瀬花辰町41番地
☎075-744-2311(代)
URL <http://www.doishibazuke.co.jp/>
E-mail kensuke-doi@doishibazuke.co.jp

- 京都市バスにて「花辰橋」下車すぐ
- タクシーにて地下鉄「国際会館駅(宝ヶ池)」より15分、京阪「出町柳駅」より20分

広々としたスペースで、ゆっくりと漬物が楽しめる本店内。観光シーズンになると、大勢の観光客で終日にぎわっている。





京都市北消防署URL <http://www.city.kyoto.jp/shohoku/kyo-shohoku/>

地元で頑張っています MY LOCAL

阪神淡路大震災以来、火災現場での消火活動にとどまらず、さまざまな災害対策面でも消防隊員への期待が高まっている。今回訪問したのは京都市消防局の北消防署。ここには京都学園大学の卒業生3名が勤務しており、それぞれ救急活動、広報活動、火災予防活動に取り組んでいる。その臨場感に満ちた活躍ぶりを語ってもらった。



射場 俊行
昭和63年経済学部経営学科卒業
京都市北消防署第一救急隊隊長

24時間体制で災害に備える

「子供のころ、『火の用心』の夜回りをしたり、近くの消防駐在所に遊びにいったりして親しみを感じ、また周りの人の勤めもあって、自然と消防士の道を選びました」

「阪神淡路大震災が、人生の大きな転機になりましたね。京都市に防災対策室ができ、5年間にわたって防災計画などの立案にあたるとともに、自ら志願して救急救命士の資格を取り、私生活では結婚もしました」

「今は24時間勤務で、休日でも大火災や地震、大事故などが発生すれば、いつで

も出勤できるように備えています。人は『大変ですね』と言いますが、私にしてみれば少しも大変だとは思いません。自分で選んだ道だし、自然と使命感も生まれてきますからね」



市民への防災広報活動を担当

「私が大学を卒業した当時は、消防士の採用数が少なかったこともあって、結局2年間の会社勤めを経て、ようやく子供のころからの夢を実現することができました」

「昨年度まで消防隊の副隊長として勤務し、今年4月に現部署に配属されました。市民新聞やHPで防火防災を市民に呼びかけたり、マスコミの取材に対応したり、幼稚園児や保育園児を対象にした防火イベントを実施したりと、幅広い消防広報活動を行っています」

「私自身、子供のころに消防士のカッ

コよさにあこがれた経験を持つだけに、目を輝かせて話を聞いてくれる子供たちに接すると、本当にやりがいを感じますね」



東 尚志
平成9年経済学部経済学科卒業
京都市北消防署予防課 消防士

消防用設備等の検査に回る日々

「当初半年間は消防学校で全寮制による研修を受け、その後、男子は消防隊に配属されるのが通常のコースとなっています。私も2年間、消防隊員として火災現場での消火活動に従事し、1年半、消防車の運転もしました」

「現在は建物や消防設備などの火災予防上の検査を担当しています。事業所の規模や実態に応じて定期的に検査に回るようしており、私はおよそ300件を受け持って防火指導を行っています。火災を防ぐには、日ごろの心がけが第一ですからね」



西尾 禎則
平成2年経済学部経営学科卒業
京都市北消防署総務課企画広報係
消防司令補

「私は今、同窓会理事の一人として運営に携わっています。同窓生の皆さんには、いろいろな面で同窓会活動にご協力いただけるよう、この機会にお願いしたいと思います」



クラブ活動レポート Reportage of Club

学生時代の忘れられない思い出のひとつがクラブ・サークル活動。卒業後もその発展ぶりや後輩の活動状況が何かと気になるところだ。これまでも本誌では順次その消息を伝えてきたが、今回は最近の成長著しく、いずれも1部昇格を目指して奮闘している男子ソフトボール部と洋弓(アーチェリー)部をレポートしてみた。今後ともOBの皆さんの力強い応援をお願いしたい。

男子ソフトボール部 秋季リーグに1部昇格を賭ける！ ～新入部員10数名を迎えて着実に実力アップ～



「とにか部活が楽しい。もうひとつの母校ができたみたいで、1年といわず、ずっと京都学園大学の仲間と一緒にプレーを続けたい気分」と、ムードの良さを強調している。

「とにか部活が楽しい。もうひとつの母校ができたみたいで、1年といわず、ずっと京都学園大学の仲間と一緒にプレーを続けたい気分」と、ムードの良さを強調している。

「とにか部活が楽しい。もうひとつの母校ができたみたいで、1年といわず、ずっと京都学園大学の仲間と一緒にプレーを続けたい気分」と、ムードの良さを強調している。

「とにか部活が楽しい。もうひとつの母校ができたみたいで、1年といわず、ずっと京都学園大学の仲間と一緒にプレーを続けたい気分」と、ムードの良さを強調している。

田中 宏監督の話(右)
春季リーグでは部員数が10名とギリギリだったのですが、1回生が10数名入部してグンと充実しました。みんな高校時代に硬式野球を経験しているの、基本はしっかりできています。秋季リーグが楽しみです。

藤塚 晃生コーチの話(左)
下級生が盛り上げて来ています。技術的には素質がある選手ばかりなので、精神面を鍛えていきたいと考えています。



洋弓部 3部優勝を果たして2部昇格へ ～勢いを駆ってさらに2部優勝を目指す～

中野 大視監督の話

3年前、監督に就任した時はほとんど部員がいない状態で、ともかく部員の確保と活性化に努めてきました。3部より2部、2部より1部と、上にいくと格段にレベルが高くなりますので、火曜・木曜の練習日だけでなく、自主的にトレーニングに励むよう指導しています。



今春の関西学生リーグで大阪外国語大学、天理大学、姫路工業大学、滋賀大学を連破。姫路工業大学戦こそ接戦だったものの、他は余裕をもって勝ち進み3部優勝を達成、念願の2部昇格を実現した。

これまでのネックは、用具(洋弓)が高額なため、せっかく新入部員を迎えても定着しない点にあった。そこで父母の会に要請して、3年前から毎年2～3セットずつ購入してもらうようになり、永年の悩みが解消した。

現在の部員数は3・4回生各2名に対し、2回生が10人、1回生が17人と大幅に増加。来年度リーグ戦への期待がふくらんでいる。

山田主将(3回生)は「2部を維持するという守りの姿勢ではなく、とりあえず

来シーズンは3位以内、できれば優勝を果たして1部昇格を勝ち取りたい。最初は遊び半分だった新入部員も、だんだん真剣に取り組むようになり、戦力として期待できる者も育ってきている。率先垂範して筋肉トレーニングに励むとともに、メンタル面の強化にも努めている」と意欲満々で語ってくれた。



Let's Reeducate!
誌上セミナー

堀田 稯先生
京都学園大学人間文化学部
助教授
関西紙芝居文化研究会代表
専門分野／児童文化、図書館情報学
最近の研究テーマ／紙芝居
による国際教育援助
著書／『図書館・ものがたり・都市』(青弓社)
共著／『紙芝居をつくらう』
(青弓社)ほか多数
論文／『大阪お伽芝居事始め
『うかれ胡弓』回想と台本』ほか多数

日本固有の児童文化、「紙芝居」が 教育界に新しい可能性を拓く!?

自転車の荷台に手描きの紙芝居を積み、各町内を回って拍子木で子どもを呼び集め、駄菓子を売って上演するテレビが一般に普及する前の昭和20、30年代には、そんな街頭紙芝居、いわゆる「紙芝居屋さん」をよく見かけたものである。その後、娯楽用ではない教育紙芝居として図書館などで受け継がれてきたが、今その紙芝居が、きわめて教育効果の高い教材として見直されつつある。実際にNGO活動にも携わっておられる堀田先生に、その現状を話していただくことにした。

トーキーへの過渡期に生まれ、 テレビの普及で消えた街頭紙芝居。

1枚1枚手描きでつくられ 子ども心を捉えた庶民文化

同窓生の中でも、街頭紙芝居を知っている人はごく少数派であろう。そこでまず、堀田先生に紙芝居の歴史を簡単にレクチャーしてもらおうことにしよう。

「紙芝居が生まれたのは昭和初期、1930年ごろのことです。当時、最先端にあった新技術が電気なんです。現在に当てはめていけば、IT(情報通信技術)に匹敵するほど脚光を浴びていた時代です。その電気を使った映画も、無声映画から音の出るトーキーに移りつつあるなど、文化面でも着々と近代化が進んでいました」

「そうした近代化に、いわば逆行するような形で生まれたのが紙芝居なんです。映画はたしかに最も先進的な娯楽でした。しかし、映画館数も上映本数も限りがあるし、お金もかかる。そこでその代用として、子どもたちがもっと手軽に楽しめる町の文化、庶民の文化として考え出されたのが紙芝居だと思われます」

街頭紙芝居はすべて手描きであった。画家が描いた作品を、1日いくらかで紙芝居屋に貸し出すわけだ。Aという紙芝居屋に貸し出した絵は翌日はBに、その次の日はCにというように次々と使い回していく。もちろんすべて連載で、評判がいい作品は延々と続けられるものである。たとえば紙芝居の名作といえる『黄金バット』などは、まさに超ロングセラー作品となった。

トーキーとともに生まれ、テレビの普及とともに消え去った街頭紙芝居。わずか40年ほどの寿命であったが、50代以上の人に

としては少年時代の忘れられない思い出として、今も深く心に残っていることだろう。

視聴覚教育の走りとして誕生 今も受け継がれる教育紙芝居

娯楽のためだけでなく、紙芝居は子どもたちの教育にも使われた。いわば視聴覚教育の走りと言っていいだろう。

「絵もストーリーも興味本位につくられた街頭紙芝居と違って、教育紙芝居は絵がおとなしく、もちろんストーリーも教育的な内容のものになっています。また、教育紙芝居のもうひとつの特色として、手描きではなく印刷物だったことがあげられます。同じ内容の紙芝居を学校や図書館に配布するためには、数多くつくる必要がありましたからね」

「教育紙芝居がつくられるようになって間もなく、しだいに戦時色が深まっていき、やがて太平洋戦争に突入していきました。そこで軍部が目をつけたのが教育紙芝居です。学童に対する軍事教育の教材として軍部が大量につくり、各学校へ配布するようになったのです」

戦後は本来の教育紙芝居として、さまざまな教育の場で広く活用されていく。

「紙芝居もそうですが、戦後、経済復興を遂げていくなかで、日本独特の産業や文化が形づくられてきました。その代表的な事例が騰写印刷、いわゆるガリ版ですね。あるいは足踏みミシンやリヤカーなどもそのジャンルに入るでしょう」

「おもしろいこと

に、日本で生まれた文化でありながら、若い人たちはこれらのものをほとんどと言っていいほど知らない。団塊の世代を境にして、見事に世代間格差が生じているわけですね」

かつては備品として、どの学校にも常備されていた紙芝居だが、今ではほとんど姿を見なくなった。図書館で細々と生き永らえている、というのが現状だ。では、日本固有の文化として生まれ、40年間にわたって子どもたちに広く愛されてきた紙芝居は、教育用さえもこのまま消え去ってしまうのだろうか。

印刷産業が発達していない 開発途上国で紙芝居が威力

毎日ランドセルに教科書を詰めて学校に行く。日本をはじめ、先進国の子どもたちにとっては当たり前のことだが、世界には学校に行けない子どもたちが数多くいる。また、たとえ学校へ行っても、教科書も筆記用具も手に入らないという学童が、大勢いるのが実情だ。そんな国のひとつに、ラオス人民民主共和国がある。

「内戦が続いていたカンボジアで、難民キャンプの支援活動を行っていた日本のNGOが、隣国ラオスの教育援助に乗り出したのは

1992年のことでした。この国の識字率は今でも60%程度。生活のために働かざるを得ず、満足に学校に通えない子ども



紙芝居を使った授業にふれて、 ラオスの子どもたちの目が輝いた！

が数多くいます」
「教育援助に着手したものの、大きな壁にぶち当たったのが教科書問題です。実はラオスには出版社がない、つまり教科書はあるが楽しい副教材がないんですね。これを解決するために、日本人でなければ思いつかない妙案が出されました。紙芝居の活用です」

「紙芝居なら手描きでつくれるうえ、1度に数十人の子どもたちを教えることができる。教材問題を解決するうえで、紙芝居はきわめて現実的かつ合理的な方法だったと言えるでしょう」

当初は「KAMISHIBAI」という、あくまでも外来文化として受け止められていた。しかし、最近ではラオス語で「ラコーン(芝居)チア(紙)」と呼ばれ、自分たちの文化として根づかせようとする気運が高まってきているという。これまでの努力が、着実に実を結ぼうとしているのである。

教育紙芝居を活用し得る指導者の育成に力を注ぐ

紙芝居を教育現場に定着させるためには、何よりも紙芝居をつくり、普及させる指導者の育成が欠かせない。そこで1995年から毎年「紙芝居セミナー」を開催してきたが、日本人がセミナーを開いている間は盛り上がるが、その後は尻すぼみになる状態が何年も続いてきたという。

しかし、セミナー受講者の有志が2年前にPADETC(開発のための指導者・人材の育成訓練機関)の中に「紙芝居チーム」をつくり、普及活動に力を入れ始めたそう。教育紙芝居が、ラオスに着実に根をおろし

てきた証しと言えるだろう。
「今年2月にも、首都ヴィエンチャンで6日間にわたって紙芝居セミナーが開催されました。ラオスの子どもに絵本を送る会というNGOが主催したのですが、この紙芝居ワークショップに、私も専門家の1人として参加しました」

「セミナー参加者は、PADETCの紙芝居チームのほか、幼稚園・小学校の先生、子ども文化センターや国立図書館の職員など15名でしたが、みんな本当に真剣でした。あれも聞きたい、これも聞きたいという参加者の熱気があふれていました」

「課題はたくさんありますが、何よりも子どもたちが楽しく学べるのが第一ですから、絵にもストーリーにもいろんな工夫をこらしています。たとえばヘビのダンスもそのひとつ。クネクネとしたラオス文字の特徴を生かして、小学校低学年の子どもには、ヘビのダンスになぞらえた絵を見せながら文字を教える、といった試みも実践しています」

ラオスにおける教育紙芝居は、乾いた大地に水がしみわたるように、じわじわと成果をあげつつあるようだ。堀田先生は次のような事例を語ってくれた。

「山岳部のある少数民族の子どもが、1人でヴィエンチャンに出てきました。食べていくためには



物ごいをするしかないわけですが、それがいやで、いつしか図書館へ通うようになったんです。そこで紙芝居と出会い、やがて言葉覚え、文字も書けるようになった。こうして、自ら生きる術を身につけていくわけですね。こういう子どもたちに出会うと、心からの感動を覚えますよ」

国内の紙芝居コンクールで 確認された高い教育効果

教育紙芝居はラオスばかりでなく、ベトナムやバキスタンなどでも教育効果をあげているが、肝心の国内ではどのような状況におかれているのだろうか。

「教育紙芝居に、かつての街頭紙芝居のおもしろさを加味して、もう一度よみがえらせようという動きが盛んになりつつあります。なかでも横浜と大阪・箕面では、紙芝居の全国コンクールが毎年開催されており、全国から数多くの作品が寄せられてきます。今夏、箕面にはラオスからも5点の作品が送られてきていますので、将来は国際的な

ストーリーをつくり、絵を描き、実演する。 紙芝居は実り多い格好の表現教育だ。

催しになることも期待されますね」
「特に夏に開催される箕面のコンクールはジュニアの部があって、小学生の応募者がかなり増えてきています。なかには1年生の時から毎年応募している常連もいますね。そういう子は、単にテクニックが上達するだけでなく、たとえば高学年になるとストーリーにほのかな恋愛感情を盛り込むなど、人間的な成長の証しを見ることができま

す」
「このように、紙芝居は子どもたちに見せるだけでなく、子ども自身に紙芝居をつくらせ、演じさせることによって、教科書による教育には望めない教育効果が期待できるわけですね。何人、何十人という子どもたちに実践させることにより、コミュニティづくりや表現教育に大きな成果をあげています」

こうした紙芝居を次世代に伝え、さらに



発展させるため、堀田先生は児童文化論を講じるばかりでなく、学生たちの実践指導にもあたっている。週に1度、十数名の学生を集めて紙芝居の演じ方、絵本の読み方、児童文学の話し方などを指導するとともに、おりにふれて幼稚園や図書館などを訪問し、実際に演じさせてもいる。これらの学生の中から、必ずや次代の後継者が育っていくことだろう。

子どもを社会化させるうえで ますます高まる図書館の役割

ところで、最近では児童虐待の増加が社会問題化しているが、紙芝居はその解決の一策となるのだろうか。

「児童虐待そのものは昔からあったことで、情報公開や人権問題への関心が高まった結果として、クローズアップされるようになったにすぎません。それよりも問題は、そういう子どもたちを社会がどう受け入れるかということです。今の日本には、そのビジョンが欠けているように思いますね」

「子どもは社会の外で生まれてくるもので、決して自然に社会に溶け込めるわけではありません。かつてオオカミに育てられた少女が見つかり、彼女をいかに人間社会に溶け込ませるかが問題になりましたが、子どもをいかに社会化するかは大人に課せられた責任なんですね」

「ところが最近では核家族化や少子高齢化が進み、あるいは親同士の結びつきが薄れていることもあって、子どもを社会化するための機能が弱まっています。そこで、その機能を代行する、いわば擬似家族としてのコミュニティづくりが求められるようになりました。その中心的存在として見直され、期待されているのが図書館です」

「多くの移民を受け入れてきた多国籍国家のアメリカでは、言葉や文化の壁を乗り越えるための機関として、また手段として図書館が大いに活用されてきました。もちろん紙芝居はありませんが、そのかわり子どもたちにお話を語って聞かせる、ストーリー・テリングの手法はしっかり確立されています」

「日本の図書館も、単に読書の場を提供するだけでなく、子どもたちを対象に紙芝居を演じる、絵本を読み聞かせる、あるいは童話や児童文学を語って聞かせるといった形で、学校とは違ったコミュニティづくり、表現教育をもっと積極的に行っていくべきだと思えますね」

「もっとも、本当に望ましいのは親がわが子にお話をしあげる、わが子と一緒に絵本を読むといった親子関係なんです。図書館は、あくまでもそれを補完する立場にすぎませんからね。その両者の役割を十分に機能させていくことが、今後重要になってくると思えます」

新学長のもと、さらに躍進するKGU

今春、学長が傳田功先生から海原徹先生にバトンタッチされ、
変革が進む教育の新時代に向けて新たなスタートを切りました。
9月からはいよいよ2003年度の入学試験が始まります。
同窓会の皆様には、発展する京都学園大学の姿をご覧いただくとともに、
今後とも母校発展のためにお力添えいただきますようお願いいたします。

山積する諸問題の解決に全力をつくします ～学長就任のご挨拶～

皆様方にはますますご活躍のことと拝察致します。私こと、この度傳田功先生の後を承けまして、第7代目学長に就任致しました。学園を取りまく昨今のまことに厳しい社会環境の中で、今さらながら責任の重大さを痛感致しております。全力を挙げて諸問題に取り組む所存ですが、私個人の方で実現可能なことは大してなく、多くの皆様方と力を合わせて頑張るほかはありません。同窓会の皆様方におかれましても、どうかこれまで以上にご協力、ご支援を頂きますようお願い申し上げます。

私は本年66歳になります。皆様方のご両親やそれ以上の古い世代であり、実に37年間という長い教職歴を有しておりますが、最近の教育現場では、そうした経験がほとんど役立たなくなりつつあります。IT革命時代の刻々と移り変わる世の中と、そのいわば申し子である若者たちの激しい変化にわれわれ古い世代がついていけない、これが最大の原因だと思っております。そうであるがゆえに、大人社会は絶えず努力を怠らず、勉強を続けなくてはなりません。われわれ教師もまったく同じであり、学生諸君に歩調を合わせようとするれば、常に前を見つめ、沢山の汗を流して頑張るほかはありません。若者たちに遅れないようにするというより、むしろ若者たちの先を進むぐら

いの積極性が必要となります。こうなると、先生稼業も決して楽ではなく、ある意味では苦痛だという人もいますが、別の見方をすれば、元気澁刺の若者たちと一緒に、彼らと同じ目線で、今をまさに生きていく幸せもまた否定できません。過去を振り返るのでなく、未来を信じてまっすぐ進んでいく若者たちのすぐそばにいる、そのことは教師冥利につきると言えるかもしれません。いささか堅苦しいご挨拶になりましたが、学長以下、われわれ教職員一同、本学の確かな将来をめざして懸命に努力する所存でおります。同窓会の皆様方、本学、なかんずく皆様の後輩として今元氣一杯に頑張っている若者たちのために、どうか温かい励ましとご指導の数々を賜りますように、改めてお願い申し上げます。



学長
海原 徹

昭和38年京都大学大学院教育学研究科修士課程修了。48年京都大学において教育学博士を取得。京都大学助手、助教授、教授を経て、平成11年京都学園大学に赴任。人間文化学部教授、同学部部長を経て、14年学長に就任。



来年度入試にお力添えをお願いします ～2003年度入試日程・科目～

2003年度の入試日程が下記のとおり決定しました。
お子様はもちろん、お知り合いの方々にも、ぜひ受験をおすすめいただきますようお願い申し上げます。
なお、大学案内および入学願書を無料で差し上げますので、ご希望の方は本学入試課までにお申し出ください。

■入試日程

制度	選考区分	学部	内容	出願期間	試験日	合格発表日	入学手続締切日(1次)	入学手続締切日(2次)	試験地	本学	京都府	京都市	奈良	金沢	大分	神戸	田舎	米子	岡山	広島	高松	福岡
AO入試	人間関係学科を除く全学科	エントリ、模擬授業、面接	10月(正式出願) ※日程の詳細については、入試課にお問合せください。	9/14(土) 10/14(祝)	11/1(金)	11/8(金)	12/25(水)	本学	○													
		自己推薦入試	面接+特長点	10/24(木)～11/1(金) ※本学へ持参の場合、11/2(土)・11/3(日)・11/4(祝)受付可。	11/9(土)	11/15(金)	11/22(金)	12/25(水)	本学	○												
公募推薦入試	公募推薦入試A方式	英・国・数より1科目+評定	11/1(金)～11/12(火) ※本学へ持参の場合、11/2(土)・11/3(日)・11/4(祝)受付可。	11/22(金)	11/29(金)	12/6(金)	12/25(水)	本学・地方	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		英・国より1科目+評定	11/13(水)・11/14(木)受付可。	11/23(祝)					本学・地方	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
公募推薦入試	公募推薦入試B方式	面接+評定	11/26(火)～12/6(金) ※本学へ持参の場合、12/7(土)・12/9(月)・12/10(火)受付可。	12/15(日)	12/20(金)	1/10(金)	1/31(金)	本学・地方 ※人間関係学科は本学のみ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		英・国・数・地歴より2科目	1/9(木)～1/21(火) ※本学へ持参の場合、1/22(水)・1/23(木)受付可。	1/29(水)	1/30(木)	2/9(日)	2/18(火)	3/20(木)	本学・地方	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
一般入試	一般入試前期	英・国・数・地歴より2科目	1/9(木)～1/21(火) ※本学へ持参の場合、1/22(水)・1/23(木)受付可。	1/30(木)	1/31(金)	2/1(土)			本学・地方	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		英・国・地歴より2科目	2/12(水)～2/24(月) ※本学へ持参の場合、2/25(火)・2/26(水)受付可。	3/4(火)	3/9(日)	3/14(金)	3/24(月)	本学・地方	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
センター利用入試	センター利用入試前期	高得点2教科2科目	1/15(水)～1/30(木)	1/18(土) 1/19(日)	2/9(日)	2/18(火)	3/20(木)	全国の大学入試センター試験会場														
		高得点2教科2科目	2/12(水)～2/27(木)	1/18(土) 1/19(日)	3/9(日)	3/14(金)	3/24(月)															

■2003年度 入試の傾向と対策

- AO入試は面接と模擬授業
AO入試は面接と模擬授業を通して「学び意欲」と知力を総合的に判断します。なお、人間関係学科ではAO入試を行いません。
- 得意分野をいかに自己推薦入試
資格・クラブ・得意科目などを幅広く評価する入試です。高校時代の資格や活動を評価します。
- 公募推薦入試A方式は1科目を選択
公募推薦入試A方式を受験する場合、11/22は英・国・数の3科目、11/23は英・国の2科目から1科目を選んで受験できますので得意科目をいかにします。
- 公募推薦入試B方式は面接のみ
公募推薦入試B方式は、面接のみで受験できます。推薦入試合格の最後のチャンスです。
- センター利用入試の実施は2回
センター利用入試前期、センター利用入試後期共に個別試験はなく、センター試験での高得点科目をいかにして受験できます。前期・後期とも高得点の2教科2科目で判定。
- 試験日・学部自由選択制
公募推薦入試A方式、一般入試前期では複数の試験日を設定。好きな日を選んで受験できます。他学部との併願や、同一学部の複数回受験が可能です。
- 一番の力を評価
試験日の連続する入試で、同じ学部を複数回受験した場合は、一番の力の良かった日の点数を合否判定の対象とします。
- 解答はマークセンス方式が中心
学科試験はマークセンス方式での解答です(数学のみ記述式)。
- 数学は記述式です
記述式にしたことにより、解答過程でも部分点が与えられます。
- 問題傾向は例年同じ
問題の出題パターンは、どの試験制度も昨年とほとんど同じなので、入試ガイドや問題集(赤本)が参考になります。
- 地方試験会場の充実
新たに田辺(和歌山)会場を加え、全国13会場を設置しました。

お問い合わせ先

京都学園大学 入試課
〒621-8555 亀岡市曾我部町南条
☎0771-29-2222(入試課直通)

入試情報テレホンサービス
☎0771-24-8686

ホームページアドレス
<http://www.kyotogakuen.ac.jp/>

Eメールアドレス
nyushi@kyotogakuen.ac.jp

あの先生は、今

今回ご自宅をお訪ねしたのは、1971年から28年間にわたって在職された川畑周作先生。現在は教育の第一線を退き、もっぱら音楽(コーラス・ピアノ)に親しんでおられる。



川畑 周作名誉教授

昭和27年京都大学理学部卒業後、7年間にわたり大学院で宇宙物理学の研究に取り組み、理学博士号を取得。大学・大学院在学中に中学・高校の教員として教壇に立つ。大学院修了後、研究所勤務を経て昭和46年京都学園大学に赴任。平成11年退職し、名誉教授となる。

「京都学園大学に着任した当時は、経済学部だけの小規模なものでしたが、教授会はきちんと開かれていたし、当初から堅実な経営に徹したまじめな大学でした。学生も素直で気持ちのいい若者ばかりでしたが、少々覇気に乏しいところに物足りなさを感じましたね」

「私は教養科目の天文学、物理学、自然科学史を担当、また着任から十数年間は経営の専門科目の管理科学論も教えました。永年やってきただけに、いろいろとユニークなゼミ生もいましたね。(株)タイターに入社して『電車でGO!』を開発した齋藤晃君や、桂三枝に弟子入りして落語家になった竹田俊英君など、まさに多士済々といった感じです」

「文系の大学に勤めたことによって、私自身も多くのことを学び、また刺激も受けました。なかでも、金融論がご専門で学長にもなられた中谷実先生や、会計学の久保田音二郎先生など、常に教育・研究につ

て考えておられた先生のことは、今も忘れられません。自然科学と社会科学の視点の違いを教わり、ずいぶん視野を広げることができましたね」

「昭和40年代、まだパソコンなどなかった時代に、助教だった長谷川靖子さんと一緒に、他の私学に先駆けて情報処理教育を始めたのも忘れられない思い出ですね。パソコンの普及時代を迎えると、設備の充実を図る一方で、情報センターづくりを進めたり、上級生を教育してTA制度をつくるなど、情報処理教育にはずいぶん力を注いだものです」

「コンピュータとともに、今は語学も欠かせない時代になっていますが、こちらの方も最近ではネイティブの先生を迎えたり、海外留学や海外研修制度を設けるなど、ずいぶん盛んになっているようです。やる気があれば、いくらでも力を伸ばせる環境にあるわけで、学生の皆さんにはこうした制度や設備を活用して、大いに学んでほしいものですね」



なつかしの下宿を訪ねて

遠方からの入学者にとって、忘れられない思い出のひとつになっているのが下宿。そこで今回は、30年近くお世話になっている南江昌子さんのお宅を訪ね、いろいろとお話をうかがった。



南江 昌子さん

京都府亀岡市河原町17旧館が明治12年、新館は正6年に竣工したお屋敷で、かつては文房具商を営んでおられたという旧家。明治時代に築造された見事な枯れ山水の庭があり、住環境は抜群だ。土蔵を改装した部屋で、学生たちがお世話になっている。

「2代目学長を務められた中谷実先生に両親が頼まれたのが、下宿生を受け入れるようになったきっかけなんです。先生が京都大学の教授をしておられた時、弟がゼミでお世話になったものから、これも何かのご縁だと思ってお引き受けしたようです」

「最初は男子学生だけをお預かりしていたんです。ところが広島から来た学生が宅配便のアルバイト中に老の坂でトラックと正面衝突し、大怪我を負ってしまいました。人工呼吸器をつけて生死の間をさまよう姿を目のあたりにして、事故の恐ろしさを痛感させられました。このような辛い思いは二度とほしくないと思い、女子学生だけを預かることにしたんです」

「大事なお子さんを預かるわけですから、親御さんに心配をかけないように、特に事情がある場合を除いて門限は10時。男子学生を一歩も家の中に入れないなど、きっちりとルールを守

ってもらうようにしています。また、アルバイトやクラブ活動に夢中になって、学業がお留守にならないように言っています」

「最初は見るからに高校生という感じだったお嬢様たちが、卒業時には本当にきれいになって社会人として巣立っていく。その成長ぶりを見るのは楽しいものです。今秋から留学生を預かることになりましたが、早く彼女たちが日本の生活に慣れ、勉学の成果を母国で生かせるよう努力してほしいと願っています」

「大学を卒業して、それぞれの故郷へ帰っていった人たちが、手紙やハガキで近況を知らせてくれる。時には久しぶりに京都に来たからと、ふらっと立ち寄ってくれる人もいます。このようにいつまでも交流が続けられるのは、本当にうれしいものですね」



同窓会員の広場

久しぶりに母校に遊びにきませんか?

～11月2日(土)・3日(日・祝)にホームカミングデイ開催!～

同窓会では、卒業してからも大学を楽しんでもらうため、年に一度、龍尾祭の時期に合わせて、ホームカミングデイを開催しています。今年のホームカミングデイは11月2日(土)・3日(日・祝)です。

龍尾祭を楽しんでいただくための金券、コンサートチケットの無料配布や、懐かしい



仲間と語り合っていたくためのテントをご用意しています。

大学を卒業したばかりの人も、卒業後数十年を経た方も、同期生やクラブの先輩・後輩お誘い合わせのうえ、ぜひお越しください。



京都学園創立80周年記念募金のお願い

我々、京都学園大学同窓会は、来年に30周年を迎えます。また、その母体である学校法人京都学園は、遡ること50年、大正14年4月に産声を上げて以来今日まで、貴兄をはじめ関係各位の温かいお力添えにより、平成17年に創立80周年を迎えることとなります。

このたび、その創立80周年記念事業の一環として、澤村栄治投手像建立の募金を行うことが決定され、我々同窓会も協力することで母校の一層の飛躍を願うところであります。

つきましては、同封の「募金趣意書」をご高覧いただき、格別のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

本来ならば、ご拝眉のうえお願いすべきところですが、略儀ながら誌面をもちましてお願い申し上げます。

京都学園大学同窓会会長 浅野 真実

事務局だより

今回から編集を担当することになりました。より良い会報づくりに取り組んでいきたいと思っておりますので、今後とも皆様のご理解・ご協力をいただきますよう、よろしく申し上げます。(t)

同窓生への近況報告やお仕事について取材させていただける方を募集しております。ご協力いただける方は、京都学園大学同窓会室までお気軽にご連絡ください。(nao)

ホームページで見る「母校の今」

インターネットで母校の最新情報を見たり、Eメールで情報のやりとりをすることができます。また、近く同窓会専用のホームページを開設する予定です。楽しみにお待ちください。

インターネット:
http://www.kyotogakuen.ac.jp/
Eメール:
gakusei@kyotogakuen.ac.jp

お便りをお待ちしております

住所変更や近況報告、誌面への掲載希望や紹介、クラス会・OB会の報告など何でも結構。お気軽に同窓会事務局へご連絡ください。

TEL:0771-22-2001(代)
0771-29-2225(直)
FAX:0771-29-2389

平成13年度 京都学園大学

同窓会 決算書

一般会計 (単位:円)

科目	決算額
前年度繰越金	2,941,697
会費	22,550,000
雑収入	9,306
収入の部合計	25,501,003

科目	決算額
事務費	817,305
人件費	0
事務補助費	817,305
会議費	954,545
会議費	342,855
交通費	611,690
事業費	14,051,724
会報発行費	5,437,778
名簿発行費	75,000
総会費	649,822
助成金	6,825,229
奨学金	960,000
慶弔費	103,895
積立金	7,000,000
基礎積立金	0
事業積立金	7,000,000
予備費	0
翌年度繰越金	2,677,429
支出の部合計	25,501,003

平成15年11月2日(日) 同窓会30周年記念式典を開催!

いよいよ来年は同窓会の30周年です。同窓会では、学内での式典・講演会・懇親会など、同窓生の皆さんが懐かしみ、楽しんでいただけるさまざまなイベントを企画しています。詳細は次回のCheerに掲載しますので、楽しみにお待ちください。

また、この催しをいっそう盛り上げるため、同窓生の皆さんからメッセージを大募集することになりました。同封の葉書に、同窓生・先輩・後輩に向けたメッセージをお書きのうえ、ご投函ください。なお誌面の関係上、一人50文字以内とさせていただきます。

みんなの力で、30周年を大いに盛り上げていきましょう。



Web同窓会「この指とまれ!」って知っていますか?
<http://www.yubitoma.or.jp>



(1993E009 : 東尚志)



(経済学部1期生)

24年勤めた会社をリストラされましたが、より条件のよい会社に再就職できました。人生捨てたものでもありません。



(S 54卒業 : 上田藤男)



(S 54卒業 : 上田藤男)

卒業して20数年がたちました。あの時の大学・自分たち、今の大学・自分たちを感じにきてください。待っています。



(1983J022 : 岸本和也)

法学部卒業10周年記念式典をホテルでしたいと考えています。30周年記念式典に集まって打ち合わせするので、全員集合!



(同窓会会長 浅野真実)

第1期卒業生195名により設立した京都学園大学同窓会は、今年第31期卒業生を加えて会員数約18,000名となりました。同窓生一人ひとりが京都学園大学の卒業生としての自覚と誇りを持って社会人として活躍し、母校の名を高めることが使命であると思っています。平成15年11月2日、ぜひご来校ください。



(齋藤豪 : 92年経済学部入学)

就職課程で一緒だったみなさん元気ですか。就職課程の学生のみなさん元気ですか。30周年記念式典で会いましょう。



(1978E737 : 馬場善和)

私にとって大学は友達づくりの場でした。30周年記念式典で、さらに新しい友人ができたらいいなと思っています。

(1972E008 : 井尻雅丈)
卒業して25年、4期生の皆さん30周年記念式典で語り合おうじゃありませんか。再会の日を楽しみにしています。

(1977E570 : 金森秀樹)
同窓会は来年11月に30歳の誕生日を迎えます。一人でも多くの同窓会員と一緒にお祝いしましょう。

(1996E322 : 松尾雄介)
私の地元である亀岡も大学とともに発展を続けています。学園祭の時期、思い出の場所へ是非お立ち寄りください。

30周年記念式典で、みんなに会えるといいな。

